

## 報告

# ドキュメンタリー映画「もっと真ん中で」上映会・トークイベント

今井 祥人、五味 遥夏  
権 香淑

開催日：2022年12月23日

### 企画の背景と概要

2016年、ヘイトスピーチ解消法（以下、「解消法」）が施行されたが、それ以降も様々な形でヘイトスピーチは継続している。このような状況を踏まえ、ヘイトスピーチに対する損害賠償を求めた裁判において、日本で初めて勝訴した李信恵氏（在日コリアン2.5世、ジャーナリスト）と、その支援者の梁千賀子氏（在日コリアン2世、「民族学級」講師）らの活動を記録したドキュメンタリーの上映会およびトークイベントが開催された。以下、総合司会を担当した者として、イベント全体についての報告と感想を述べる。

### 映画の上映

イベントは、映画の上映（1部）とトーク（2部）の2部構成であった。まず、1部では映画「もっと真ん中で」（83分）が上映された。映画は、裁判で民族差別と女性差別の複合差別が認定されるまでの様子が描かれていた。ヘイトスピーチが行われている場面はもちろん、李氏の活動拠点である大阪の鶴橋を中心に撮影されていた。李氏は映画の中で、裁判闘争が民族差別に立ち向かう闘いであるとともに、女性差別に対する異議申し立てであることも強調していた。ある意味、映画は、韓国人映画監督の呉素暎氏が、日本における複合差別と闘う在日コリアン女性たちと出会い、その過酷な現実に向き合いながら寄り添い続けた記録でもある。

### 現状に関する共有

上映会終了後、休憩を挟んだ2部の冒頭では、総合司会者が報告を行った。内容は、裁判後から現在までの日本社会を取り巻くヘイトスピーチの現状と対策についてであった。解消法が施行された後、川崎市で全国初の刑事罰を盛り込んだ反ヘイト条例が施行されるなど、諸々動きはあった一方で、選挙活動・政治活動の名を借りたヘイトスピーチが今なお続くと共に、ヘイトクライムが増加している現実を看過できないとし、ヘイトスピーチ解消への課題は山積していることを報告した。

### 「もっと真ん中で」トーク

トークセッションでは主に、映画に関する質問に対して登壇者が応答する形式で進められた。李氏は「いつの間にか監督に撮られていた」「酒とホルモンが裁判の原動力」などと冗談を交えながらも、「裁判で闘ううちにカウンターとして協力する仲間が増えた」「裁判中体重の増減が凄まじかった」など法廷闘争中の貴重な体験談を語られた。また、呉氏は「韓国では中国

人に対するヘイトが存在するので、韓国でも差別禁止法が成立することを願っている」と韓国社会に属する人々のコメントを紹介した。

### 感想①（今井祥人）

映画鑑賞およびトークイベントを通して実態を共有し、根絶に向けてどのような取り組みが必要なのかを考えるきっかけになった。とりわけ、ヘイトスピーチの被害にあった当事者の声が聴けた、大変貴重な機会となった。従来のメディアにおけるヘイトスピーチの議論では、被害者の視点が欠如している。テレビで放送されるワイドショー等で取り上げられるのは加害者像が多く、被害者視点から問題の実態に迫る話題には乏しいように見受けられる。

一方で、この映画は被害者に対して、監督が徹底的に取材を行い、在日コリアンの姿を映し出している。このことにより、映画の視聴者が被害者と同じ目線に立つことを可能とし、ヘイトスピーチが不条理であることを効果的に訴えている。特に、複合差別に着目することで問題の複雑さを明白にしている。SNSで個人のバックグラウンドに対する誹謗中傷の書き込みが蔓延る現代社会において、この映画はヘイトスピーチの問題性に鋭く切り込んでいる点で重要といえる。

### 感想②（五味遥夏）

映画タイトル「もっと真ん中で」は、「もっと多くのマジョリティがヘイトスピーチ問題の真ん中に立つこと」「ヘイトスピーチに関する議論がもっと社会の中心的なイシューとして認識されること」と解釈できるように思われる。

李氏をはじめ当事者の方々が行動してくれたおかげで、解消法が施行にいたった経緯があり、これからはもっとマジョリティがヘイトスピーチ問題の先頭に立たなければならないと考える。問題を解決するために当事者性は欠かせないが、それでもこれ以上辛い思いを当事者の方々にさせるわけにはいかないと痛感した。

また、トークセッションで、登壇者の方々が「原動力は人との繋がり」と指摘されていたことが印象深い。「差別はよくない」と学校現場などにおいて口頭で伝えることは簡単ではあるが、実際に当事者の方やカウンターの人々と関わる経験が、多くの人にとってヘイトスピーチを自分ごととして考えるきっかけになるだろう。女性であるがゆえに攻撃を受けている複合差別の状況を考えると、ヘイトスピーチをなくすためには、あらゆる方向からの対策が必要である。加えて、フェミニズム運動や、日本における外国籍の人の権利問題について考えることもヘイトスピーチの撲滅につながるのではないかと考えるにいたった。

今井 祥人（いまい よしと）（上智大学総合グローバル学部学生）

五味 遥夏（ごみ はるか）（上智大学総合グローバル学部学生）

権 香淑（くおん ひゃんすく）

（グローバル・コンサーン研究所・上智大学総合グローバル学部）